

7 環境

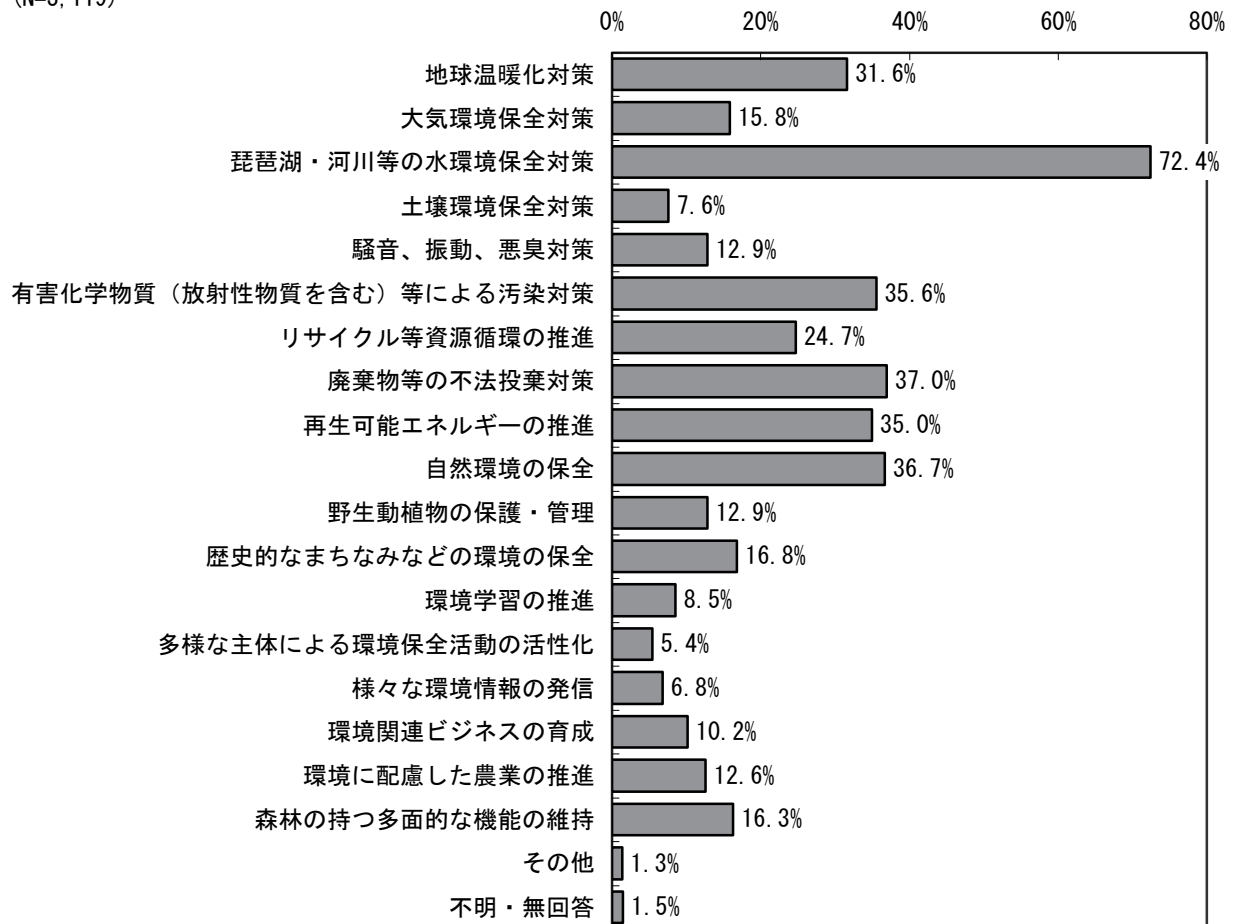
(1) 県が優先的に取り組むべき環境課題や施策

問32 あなたは、県が優先的に取り組むべき環境課題や施策は何だと思えますか。(〇は5つまで)

◆「琵琶湖・河川等の水環境保全対策」が72.4%

県が優先的に取り組むべき環境課題や施策については、「琵琶湖・河川等の水環境保全対策」が72.4%で最も多く、以下、「廃棄物等の不法投棄対策」が37.0%、「自然環境の保全」が36.7%、「有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策」が35.6%、「再生可能エネルギーの推進」が35.0%と続いている。

(N=3,119)



【地域別】

いずれの地域においても「琵琶湖・河川等の水環境保全対策」が最も多くなっている。次いで、大津地域では、「自然環境の保全」、湖南地域・甲賀地域・湖東地域では「廃棄物等の不法投棄対策」、東近江地域では「地球温暖化対策」、湖北地域と湖西地域では「有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策」（湖西地域では「自然環境の保全」も同率）となっている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (N=3,119)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 72.4%	廃棄物等の不法投棄対策 37.0%	自然環境の保全 36.7%	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策 35.6%	再生可能エネルギーの推進 35.0%
大津地域 (N=790)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 75.9%	自然環境の保全 43.0%	廃棄物等の不法投棄対策 35.9%	再生可能エネルギーの推進 34.4%	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策 32.7%
湖南地域 (N=680)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 71.8%	廃棄物等の不法投棄対策 38.8%	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策 36.8%	自然環境の保全 36.2%	再生可能エネルギーの推進 35.9%
甲賀地域 (N=316)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 65.2%	廃棄物等の不法投棄対策 41.8%	再生可能エネルギーの推進 39.2%	地球温暖化対策 38.0%	自然環境の保全 35.4%
東近江地域 (N=526)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 73.0%	地球温暖化対策 35.0%	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策 33.5%	再生可能エネルギーの推進 33.1%	自然環境の保全 32.7%
湖東地域 (N=338)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 70.4%	廃棄物等の不法投棄対策 42.0%	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策 38.5%	再生可能エネルギーの推進 34.9%	地球温暖化対策 31.4%
湖北地域 (N=344)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 76.2%	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策 37.8%	○廃棄物等の不法投棄対策 ○再生可能エネルギーの推進 35.5%	自然環境の保全 34.9%	
湖西地域 (N=125)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策 64.8%	○有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策 ○自然環境の保全 44.0%	廃棄物等の不法投棄対策 31.2%	再生可能エネルギーの推進 29.6%	

【性別】

男女ともに「琵琶湖・河川等の水環境保全対策」が最も多く、以下、男性では「再生可能エネルギーの推進」、「廃棄物等の不法投棄対策」、「自然環境の保全」と続いており、女性では「有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策」、「自然環境の保全」、「地球温暖化対策」と続いている。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,448)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策	再生可能エネルギーの推進	廃棄物等の不法投棄対策	自然環境の保全	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策
	72.7%	39.4%	39.3%	38.3%	30.9%
女性 (N=1,644)	琵琶湖・河川等の水環境保全対策	有害化学物質（放射性物質を含む）等による汚染対策	自然環境の保全	地球温暖化対策	廃棄物等の不法投棄対策
	72.3%	39.7%	35.4%	34.9%	34.4%

【性・年代別】

いずれの性・年代においても「琵琶湖・河川等の水環境保全対策」が最も多く、男性の50歳代と女性の40歳代以外では7割を超えている。

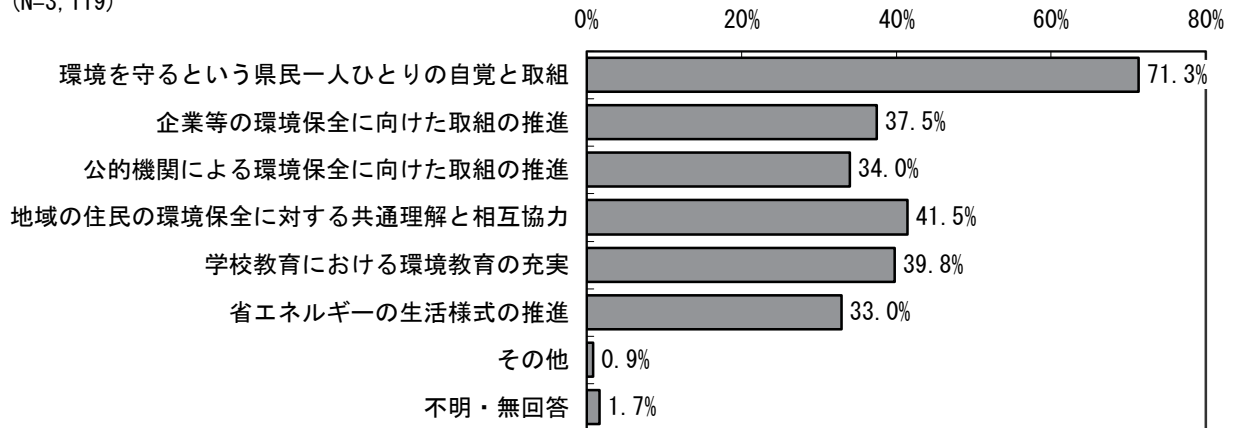
(2) 環境問題の解決に重要なこと

問33 あなたは、環境問題を解決し、良好な環境を次世代に引き継ぐためには、どのようなことが重要であると考えますか。(〇は3つまで)

◆「環境を守るという県民一人ひとりの自覚と取組」が71.3%

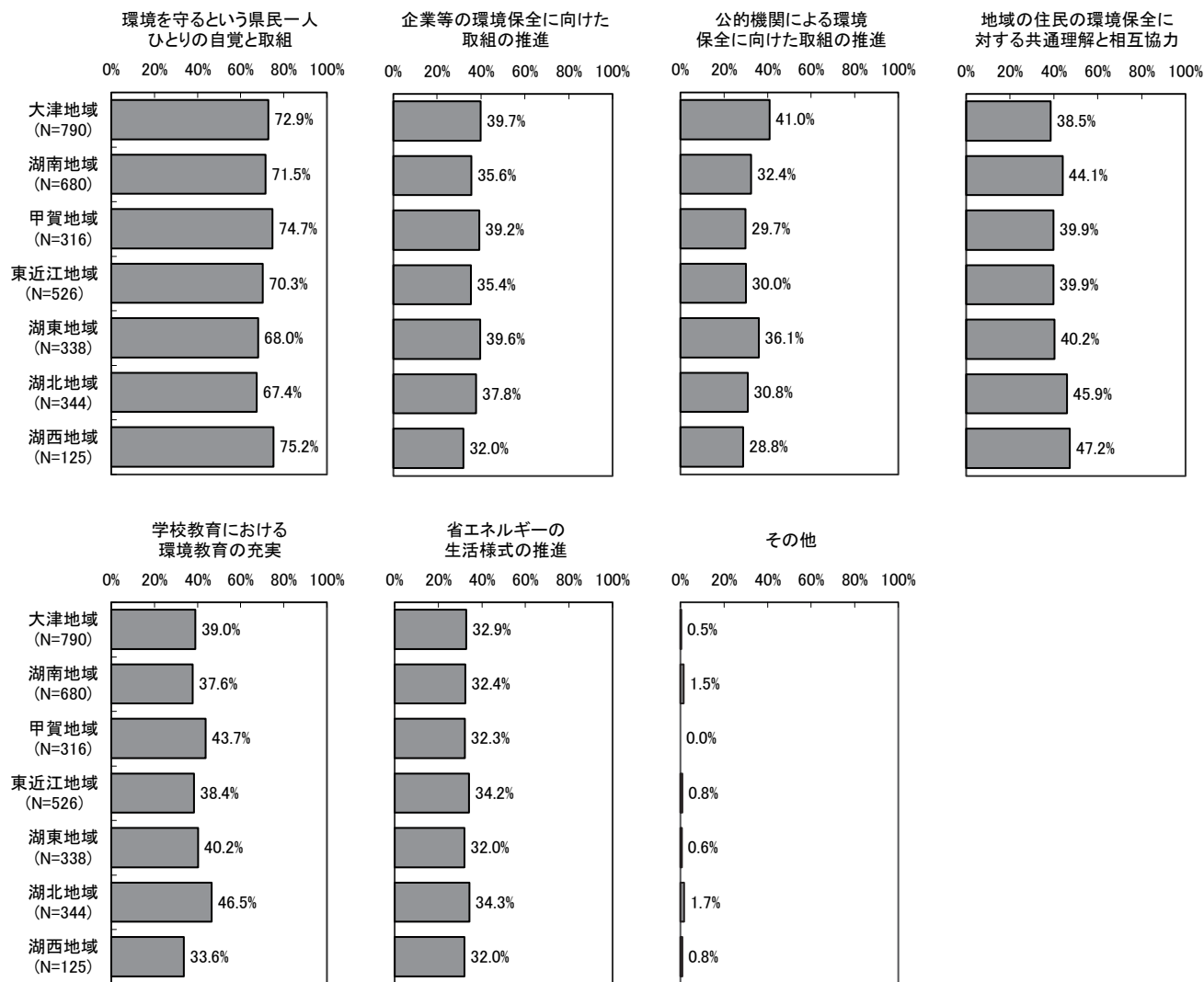
環境問題の解決に重要なことについては、「環境を守るという県民一人ひとりの自覚と取組」が71.3%で最も多く、以下、「地域の住民の環境保全に対する共通理解と相互協力」が41.5%、「学校教育における環境教育の充実」が39.8%、「企業等の環境保全に向けた取組の推進」が37.5%と続いている。

(N=3,119)



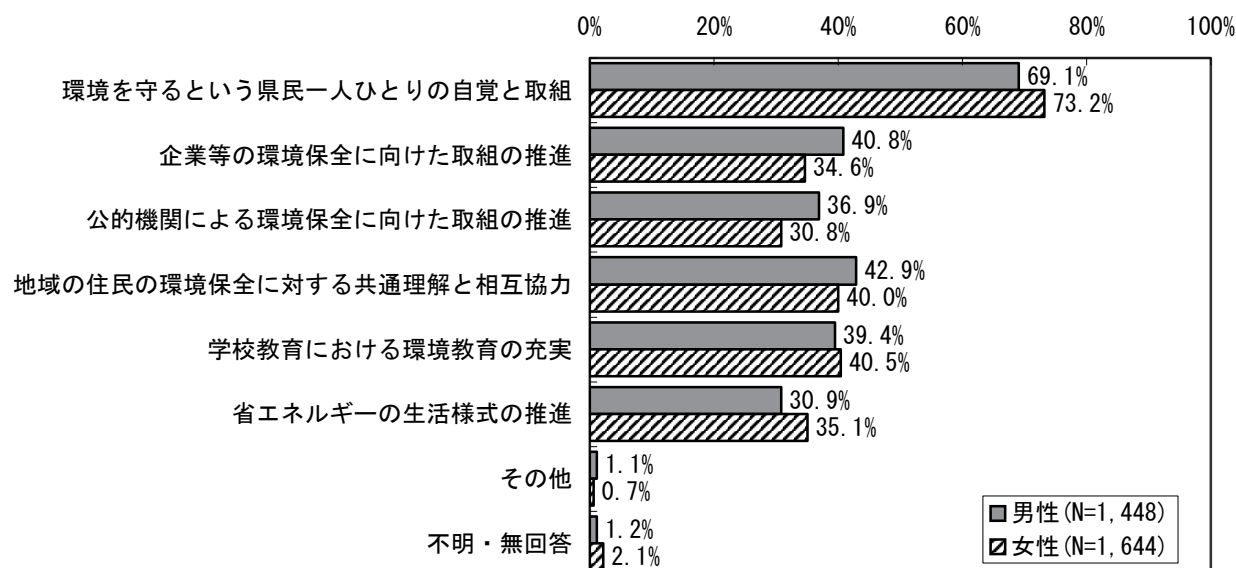
【地域別】

いずれの地域においても「環境を守るという県民一人ひとりの自覚と取組」が最も多くなっている。次いで、大津地域では「公的機関による環境保全に向けた取組の推進」、湖南地域・東近江地域・湖東地域・湖西地域では「地域の住民の環境保全に対する共通理解と相互協力」（湖東地域では「学校教育における環境教育の充実」も同率）、甲賀地域と湖北地域では「学校教育における環境教育の充実」となっている。



【性別】

男女ともに「環境を守るという県民一人ひとりの自覚と取組」が最も多く、女性（73.2%）が男性（69.1%）に比べて4.1ポイント多くなっている。以下、男性では「地域の住民の環境保全に対する共通理解と相互協力」、「企業等の環境保全に向けた取組の推進」、女性では「学校教育における環境教育の充実」、「地域の住民の環境保全に対する共通理解と相互協力」と続いている。



【性・年代別】

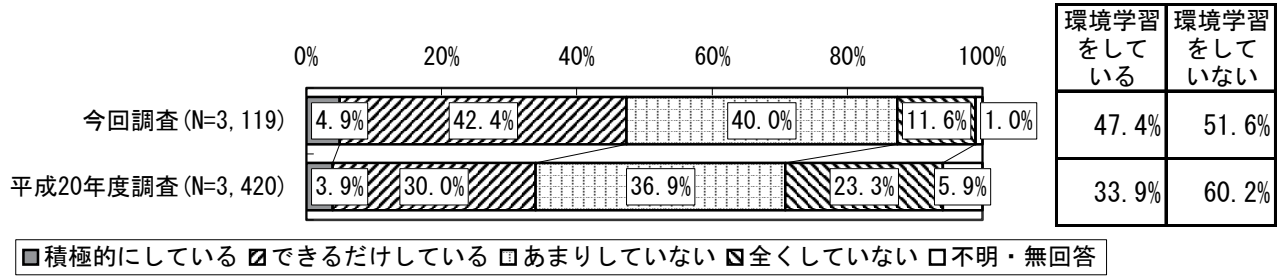
いずれの性・年代においても「環境を守るという県民一人ひとりの自覚と取組」が最も多く、女性の70歳以上が94.1%で最も多くなっている。次いで、男性の20歳代では「公的機関による環境保全に向けた取組の推進」、男性の30歳代、女性の20歳代と30歳代では「学校教育における環境教育の充実」、男性の40歳代と70歳以上、女性の40歳代では「企業等の環境保全に向けた取組の推進」、男性の50歳代と60歳代、女性の50歳以上では「地域の住民の環境保全に対する共通理解と相互協力」となっている。

(3) 環境学習への取り組み状況

問34 あなたは、日頃から「環境学習」をしていますか。(○は1つだけ)

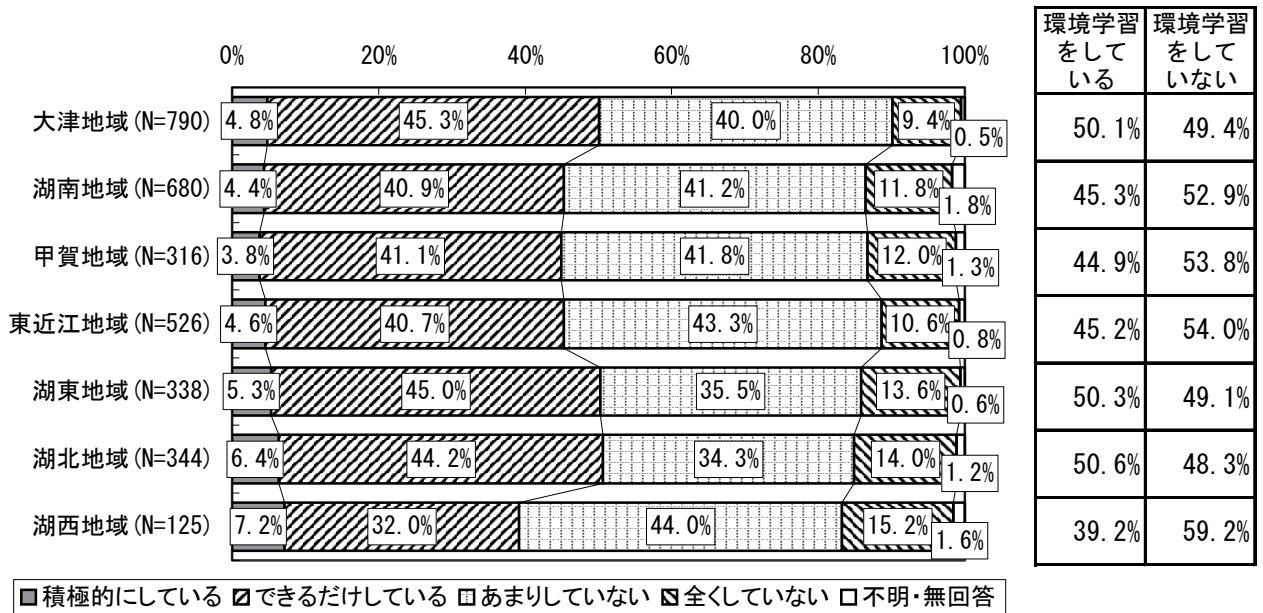
◆『環境学習をしている』が47.4%

「環境学習」の実践状況については、『環境学習をしている』（「積極的にしている」と「できるだけしている」の合計）は47.4%となっており、平成20年度調査と比較すると13.5ポイント増加している。また、『環境学習をしていない』（「あまりしていない」と「全くしていない」の合計）は51.6%となっており、平成20年度調査と比較すると8.6ポイント減少している。



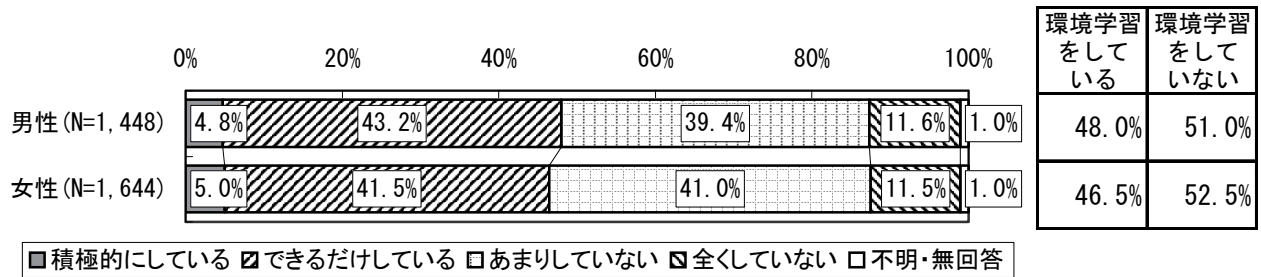
【地域別】

大津地域・湖東地域・湖北地域では『環境学習をしている』が『環境学習をしていない』を上回っているが、他の地域では『環境学習をしていない』が『環境学習をしている』を上回っている。



【性別】

男女ともに『環境学習をしていない』が『環境学習をしている』を上回っている。



【性・年代別】

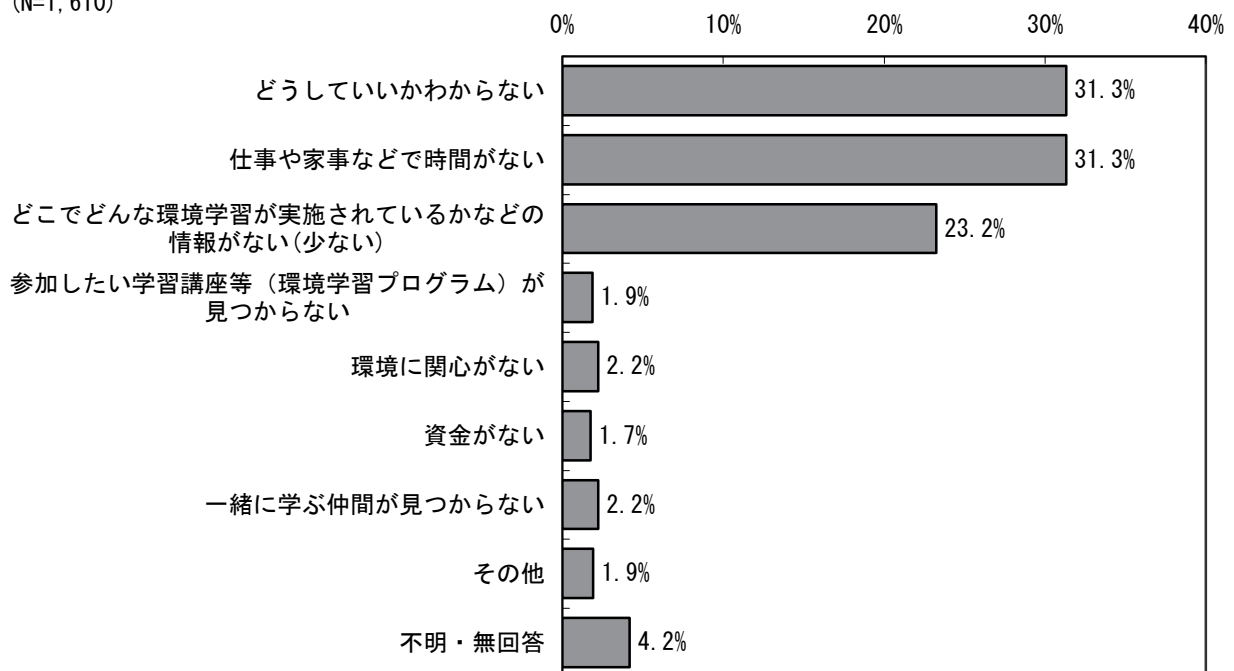
男性の50歳以上、女性の50歳代と60歳代では『環境学習をしている』が『環境学習をしていない』を上回っており、男性の60歳代の『環境学習をしている』が59.2%で最も多くなっている。他の性・年代では『環境学習をしていない』が『環境学習をしている』を上回っており、男性の20歳代の『環境学習をしていない』が70.4%で最も多くなっている。

付問1 問34で「3」または「4」と回答された方におたずねします。その理由として、最もあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つだけ)

◆「どうしていいかわからない」と「仕事や家事などで時間がない」がともに31.3%

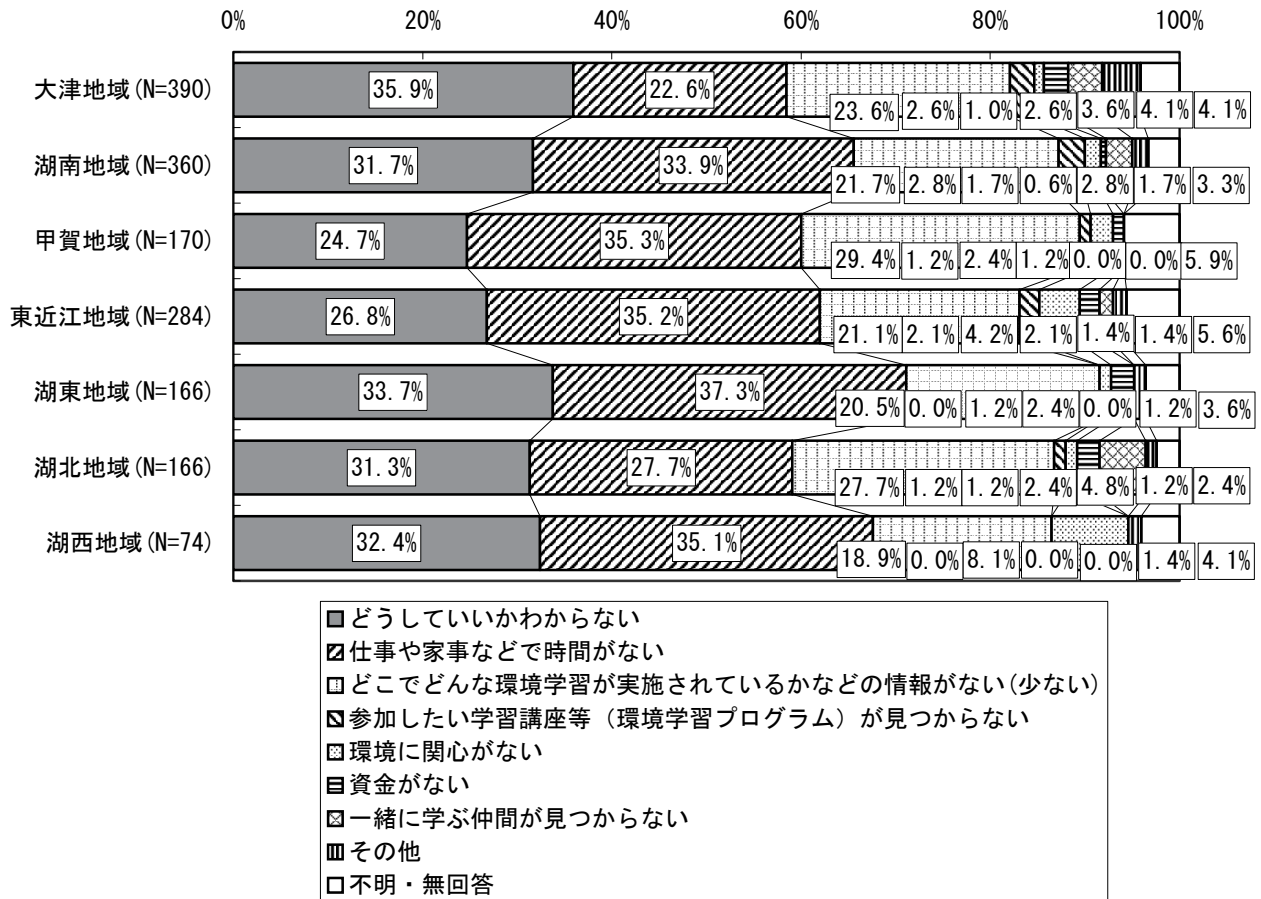
問34で「あまりしていない」または「全くしていない」と回答した人に対して、「環境学習」をしていない理由をたずねたところ、「どうしていいかわからない」と「仕事や家事などで時間がない」がともに31.3%で最も多く、次いで「どこでどんな環境学習が実施されているかなどの情報がない(少ない)」が23.2%となっている。

(N=1,610)



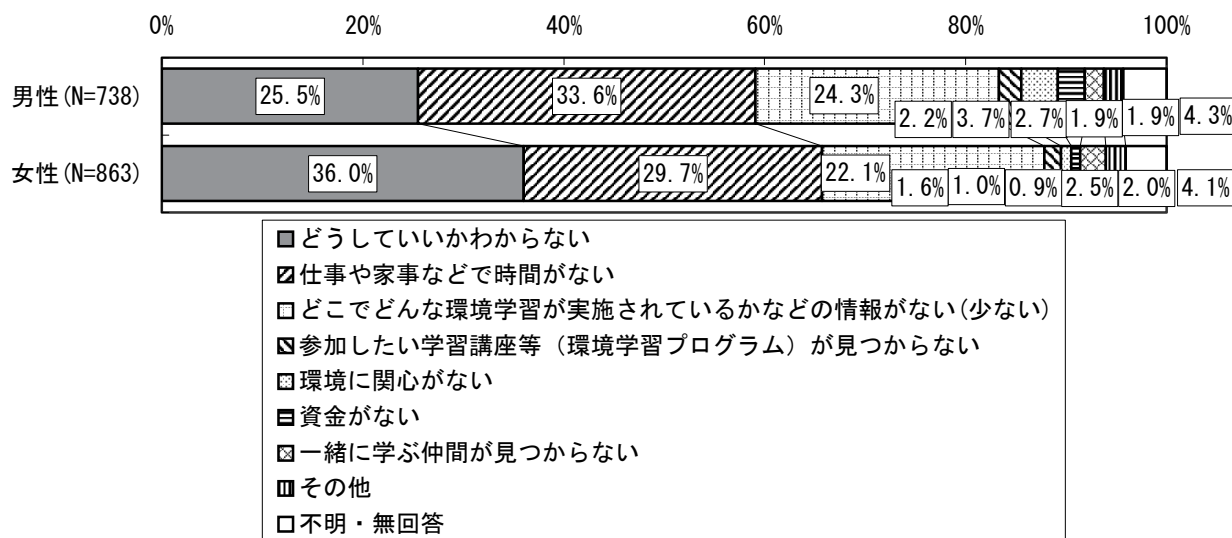
【地域別】

大津地域と湖北地域では「どうしていいかわからない」、他の地域では「仕事や家事などで時間がない」が最も多くなっている。次いで、大津地域・甲賀地域・湖北地域では「どこでどんな環境学習が実施されているかなどの情報がない(少ない)」(湖北地域では「仕事や家事などで時間がない」も同率)、湖南地域・東近江地域・湖東地域・湖西地域では「どうしていいかわからない」となっている。



【性別】

男性では「仕事や家事などで時間がない」が最も多く、女性では「どうしていいかわからない」が最も多くなっている。



【性・年代別】

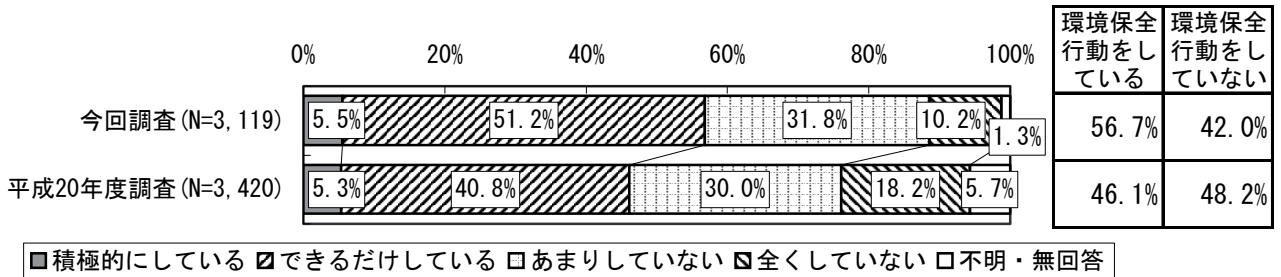
男性の20歳代、女性の20歳代～40歳代と70歳以上では「どうしていいかわからない」が最も多くなっている（男性の20歳代では「仕事や家事などで時間がない」も同率で最多）。男性の30歳代～50歳代、女性の50歳代では「仕事や家事などで時間がない」が最も多くなっている。男性の60歳以上と女性の60歳代では「どこでどんな環境学習が実施されているかなどの情報がない(少ない)」が最も多くなっている。

(4) 環境保全行動への取り組み状況

問35 あなたは、日頃から「環境保全行動」をしていますか。(○は1つだけ)

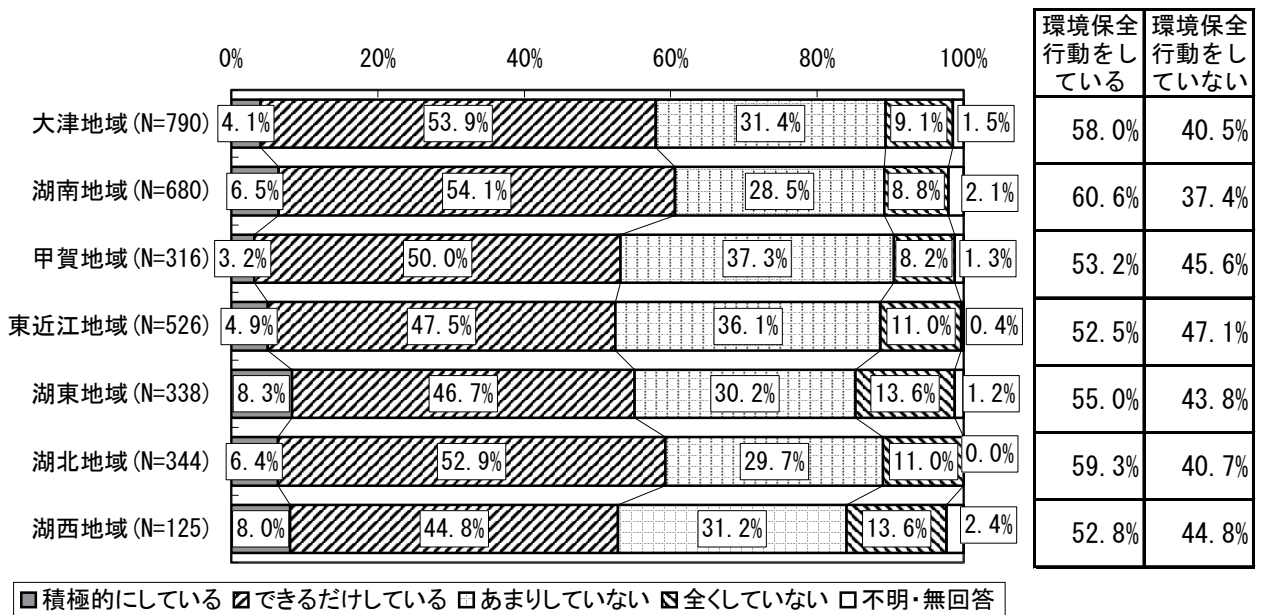
◆『環境保全行動をしている』が56.7%

「環境保全行動」の実践状況については、『環境保全行動をしている』（「積極的にしている」と「できるだけしている」の合計）は56.7%となっており、平成20年度調査と比較すると10.6ポイント増加している。また、『環境保全行動をしていない』（「あまりしていない」と「全くしていない」の合計）は42.0%となっており、平成20年度調査と比較すると6.2ポイント減少している。



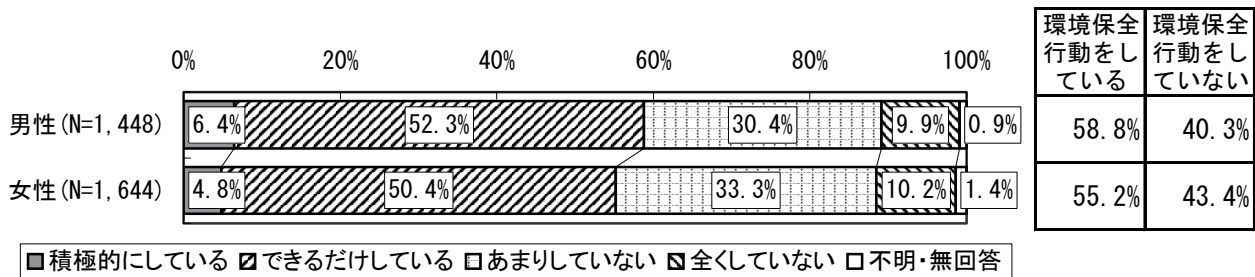
【地域別】

いずれの地域においても『環境保全行動をしている』が『環境保全行動をしていない』を上回っており、湖南地域の『環境保全行動をしている』が60.6%で最も多くなっている。



【性別】

男女ともに『環境保全行動をしている』が『環境保全行動をしていない』を上回っている。『環境保全行動をしている』は男性（58.8%）が女性（55.2%）に比べて3.6ポイント多くなっている。



【性・年代別】

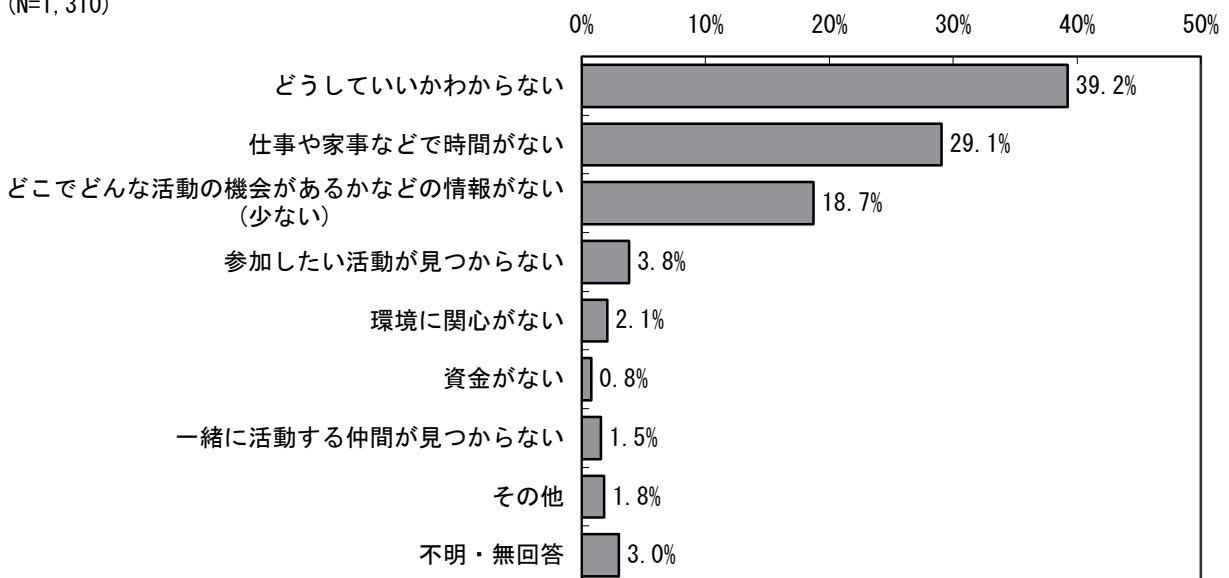
男性の30歳以上、女性の30歳代～60歳代では『環境保全行動をしている』が『環境保全行動をしていない』を上回っており、男性の50歳代と60歳代では『環境保全行動をしている』が6割を超えている。男性の20歳代、女性の20歳代と70歳以上では『環境保全行動をしていない』が『環境保全行動をしている』を上回っており、男女ともに20歳代では『環境保全行動をしていない』が5割を超えている。

付問1 問35で「3」または「4」と回答された方におたずねします。その理由として、最もあてはまるものを1つ選んでください。（○は1つだけ）

◆「どうしていいかわからない」が39.2%

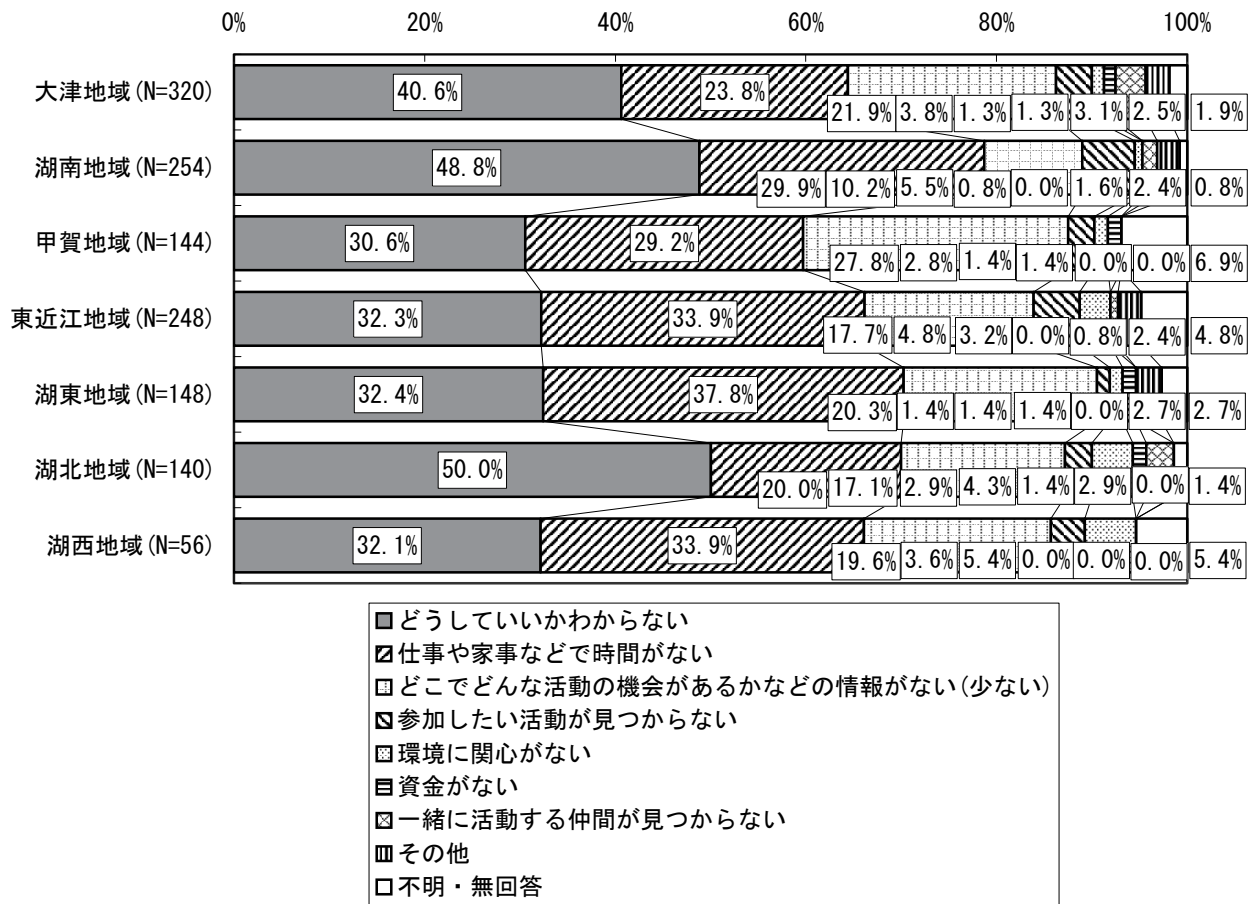
問35で「あまりしていない」または「全くしていない」と回答した人に対して、「環境保全行動」をしていない理由をたずねたところ、「環境保全行動」をしていない理由については、「どうしていいかわからない」が39.2%で最も多く、以下、「仕事や家事などで時間がない」が29.1%、「どこでどんな活動の機会があるかなどの情報がない(少ない)」が18.7%と続いている。

(N=1,310)



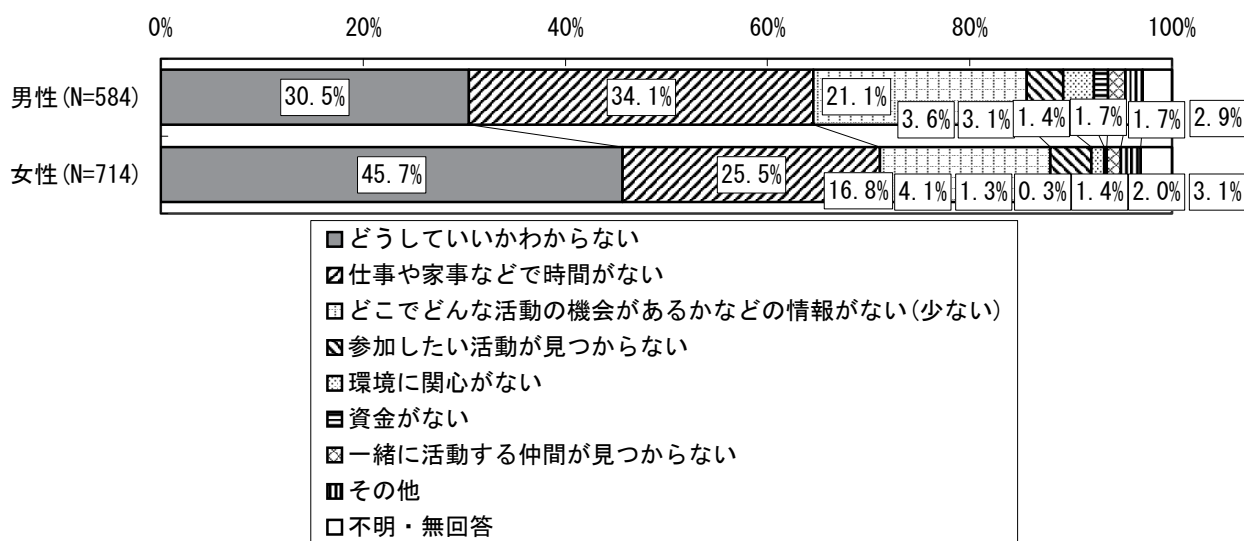
【地域別】

大津地域・湖南地域・甲賀地域・湖北地域では「どうしていいかわからない」が最も多く、湖北地域が50.0%で最も多くなっている。東近江地域・湖東地域・湖西地域では「仕事や家事などで時間がない」が最も多く、湖東地域が37.8%で最も多くなっている。



【性別】

男性は「仕事や家事などで時間がない」が最も多く、女性は「どうしていいかわからない」が最も多くなっている。「どうしていいかわからない」は、女性（45.7%）が男性（30.5%）に比べて15.2ポイント多くなっている。



【性・年代別】

女性では、いずれの年代においても「どうしていいかわからない」が最も多くなっている。男性では、20歳代は「どうしていいかわからない」、30歳代～50歳代は「仕事や家事などで時間がない」、60歳以上は「どこでどんな活動の機会があるかなどの情報がない(少ない)」がそれぞれ最も多くなっている。

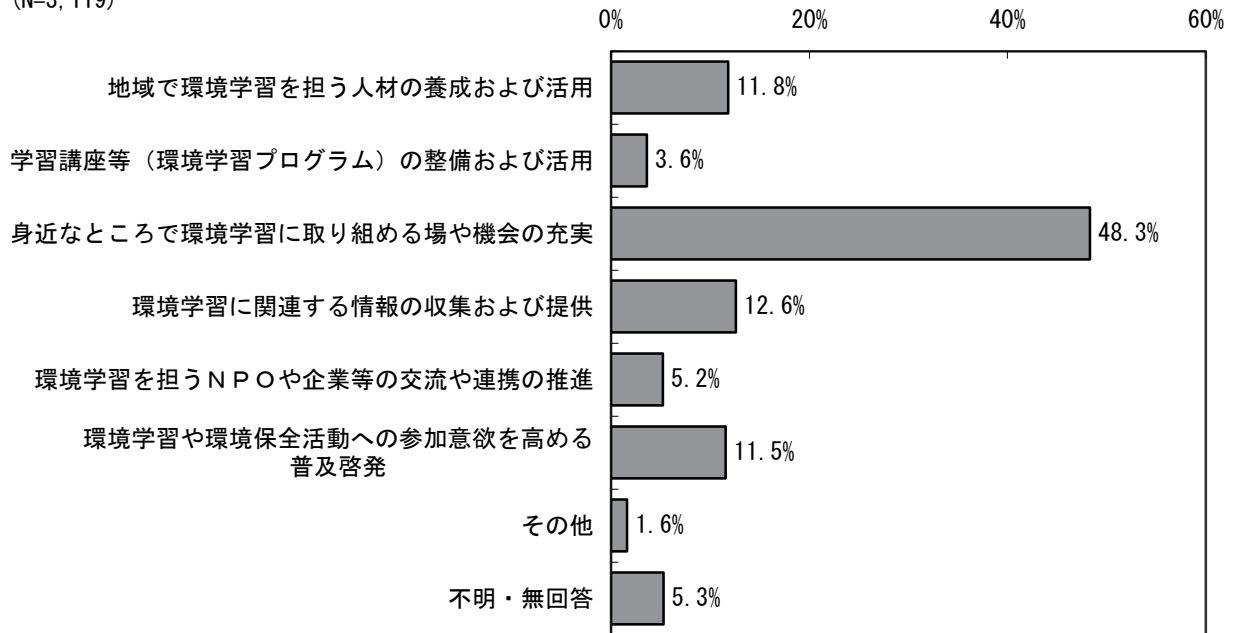
(5) 県民の主体的な環境学習を推進するために重要な県の施策

問36 あなたは、県民の主体的な環境学習を推進するために、特に重要だと思う県の施策は何だと思いますか。(〇は1つだけ)

◆「身近なところで環境学習に取り組める場や機会の充実」が48.3%

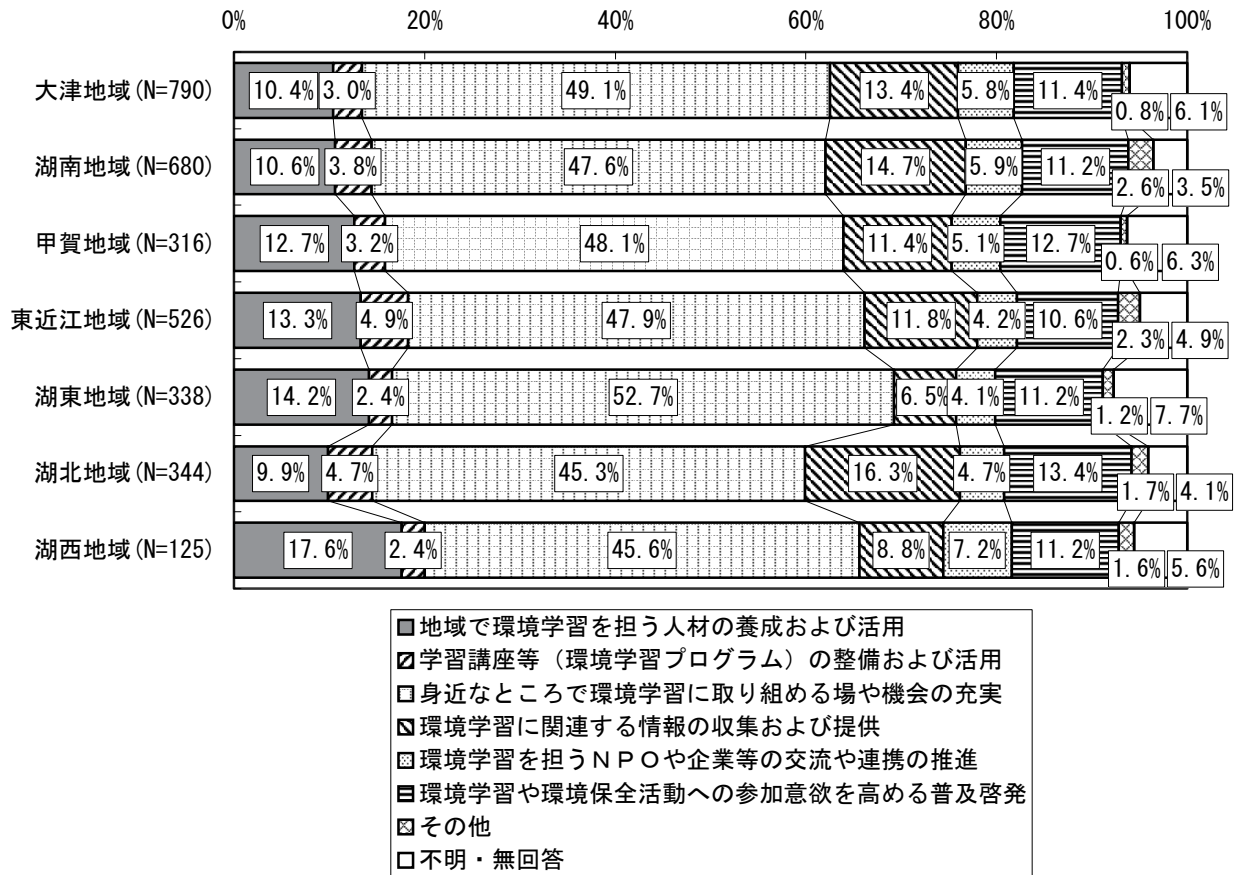
県民の主体的な環境学習を推進するために重要な県の施策については、「身近なところで環境学習に取り組める場や機会の充実」が48.3%で最も多く、以下、「環境学習に関連する情報の収集および提供」が12.6%、「地域で環境学習を担う人材の養成および活用」が11.8%と続いている。

(N=3,119)



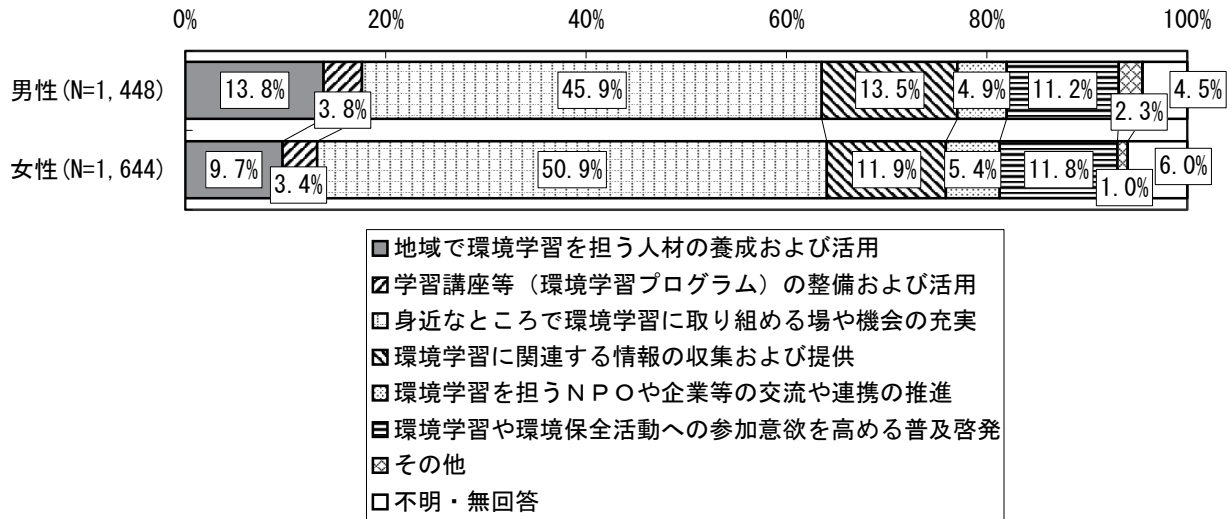
【地域別】

いずれの地域においても「身近なところで環境学習に取り組める場や機会の充実」が最も多くなっている。次いで、大津地域・湖南地域・湖北地域では「環境学習に関連する情報の収集および提供」、甲賀地域・東近江地域・湖東地域・湖西地域では「地域で環境学習を担う人材の養成および活用」となっている（甲賀地域では「環境学習や環境保全活動への参加意欲を高める普及啓発」も同率）。



【性別】

男女ともに「身近なところで環境学習に取り組める場や機会の充実」が最も多く、女性（50.9%）が男性（45.9%）に比べて5.0ポイント多くなっている。次いで、男性では「地域で環境学習を担う人材の養成および活用」、女性では「環境学習に関連する情報の収集および提供」となっている。



【性・年代別】

いずれの性・年代においても「身近なところで環境学習に取り組める場や機会の充実」が最も多くなっている。次いで、男性の20歳代、女性の30歳代と60歳代では「環境学習に関連する情報の収集および提供」、男性の60歳代、女性の20歳代・40歳代・50歳代では「環境学習や環境保全活動への参加意欲を高める普及啓発」、その他の性・年代では「地域で環境学習を担う人材の養成および活用」となっている。